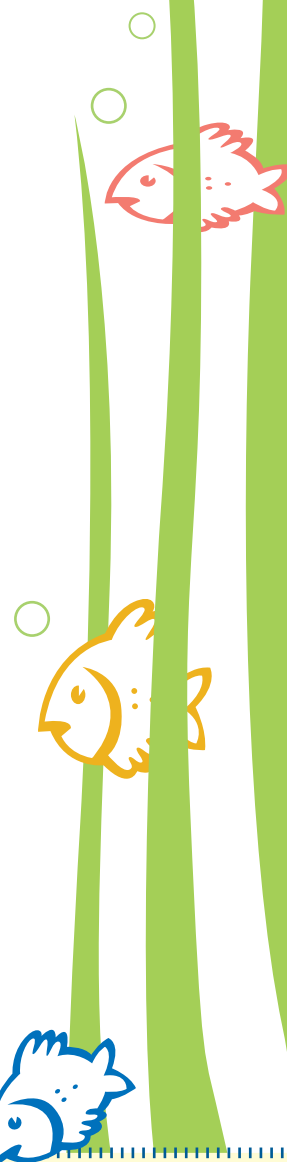


Newsletter of

日本サンゴ礁学会ニュースレター
2000 Vol. 7
Jun.

J C R S Japanese Coral Reef Society



JCRS
Japanese Coral Reef
Society

日本サンゴ礁学会第3回大会のご案内
日本サンゴ礁学会評議員会議事録

Newsletter of Japanese Coral Reef Society Vol.7

日本サンゴ礁学会第3回大会のご案内

日本サンゴ礁学会第3回大会（2000/2001年度大会）を東京・慶応義塾大学にて下記要領で開催します。

皆様のご参加とご協力を何卒よろしくお願いします。

大会実行委員長：近森 正

期 日：2000年9月22日（金）～9月24日（日）

会 場：慶応義塾大学三田キャンパス 三田北新館ホール

（詳細案内図は次号ニュースレターに掲載します）

スケジュール

（公開シンポジウムの日程が変更されましたので、ご注意下さい）

9月21日（木）15:00～18:00 評議員会

9月22日（金）

10:00～12:00 総会

12:00～17:00 一般発表

18:00～20:00 懇親会

9月23日（土・祝日）

9:30～12:00 一般発表

14:00～17:00 公開シンポジウム（参加費無料）

基調講演 「サンゴ礁の人々と暮らし：地球温暖化と経済発展がもたらすもの」

・国際サンゴ礁学会会長：Dr. Terry Done（オーストラリア）

パネルディスカッション 「私達をめぐるとサンゴ礁 - 特に社会、経済、文化の見地から」

9月24日（日）

9:30～12:00 一般発表

13:00～18:00 一般発表

なお、大会関連の最新情報は、学会 HomePage

<<http://www.soc.nacsis.ac.jp/jcrs/index.html>>

に掲載しますので、ご確認ください。

日本サンゴ礁学会第3回大会の参加・発表申し込み要領

大会期日：2000年9月22日（金）～9月24日（日）

会 場：慶応義塾大学三田キャンパス 三田北新館ホール

参加登録料：一般5,000円、学生2,500円、懇親会費5,000円

（郵便振替口座振り込みは8月21日までをお願いします）

発表申込み締切：2000年7月 7日（金）

予稿原稿締切：2000年8月21日（月）

学会メーリングリストに登録の方には、e-mailでご案内を差し上げていますが、参加・発表申し込み等のご連絡は、なるべくe-mailで<coral@etl.go.jp>宛お申し込み下さい。e-mailでご連絡頂いた方には、数日以内にご返信します。また、e-mailをご使用にならない方は、Fax：0298(61)5806でお願いします。

日本サンゴ礁学会第3回大会参加申し込み

（参加者名簿作成のため、お手数ですが参加者一人毎に個別にe-mailを8月21日（月）までにお送り下さい）

1. 参加者氏名・所属

2. 参加者連絡先：（勤務先・自宅）住所、電話、Fax

3. 参加内容：大会のみ、懇親会（参加・不参加）

4. 参加費の取り扱い：郵便振替（8月21日締切）、大会当日支払い（どちらかを選択して下さい。なお、大会当日は受付が混雑する可能性がありますのでなるべく郵便振替をお願いします）

――参加費等の振り込みについて――

郵便振替口座番号：00150-1-541757

口座名称：日本サンゴ礁学会第3回大会

前回とは違い、振り込み料も安く、通信欄がありますので、かならず必要事項（氏名・所属、一般・学生・懇親会の区別などの内訳）を記入して下さい。複数の方がまとめて振り込まれても結構です。

日本サンゴ礁学会第3回大会発表申し込み

（発表毎に個別にe-mailを7月7日（金）までにお送り下さい）

1. 発表題目

2. 発表者氏名・所属（発表者に 印）

3. 発表内容：100字程度、キーワードでも可

4. 発表形態：ポスター発表、口頭発表（いずれかを選択して下さい）
（OHP、35mmスライド、その他：ご相談下さい）

5. 発表代表者：氏名、所属、連絡先（住所、e-mail、電話、Fax）

今回は、ポスター発表を充実させ、口頭発表は一会場とする計画です。このため、ポスター発表にプレゼンテーション賞の設定を予定していますので、奮ってポスター発表をお願いします。

日本サンゴ礁学会第3回大会予稿原稿作成要

（予稿原稿は郵送で8月21日（月）必着でお願いします。なお、発表申し込み後にタイトル、発表者等の変更がある場合は、訂正内容をe-mailして下さい）

1. 用紙サイズ：A4版、必ず上下3cm、左右2.5cmあけること。

2. 書式：タイトル15pt程度、氏名・所属10.5pt程度（発表者に印）、本文10.5pt程度（40字×40行＝1600字程度）

3. その他：図表・写真等は適宜張り込んで頂いて結構です。

公開シンポジウムのご案内

四月の「太平洋島サミット」の宣言にも取り上げられたように、地球温暖化によって世界中のサンゴ礁が、今、消滅の危機にあります。また、産業や経済の激しい変化によって、長い間サンゴ礁と共に生きてきた人々の暮らしも、今、大きく変貌しています。多様ないのちをはぐくみ、人々に恵みをもたらしてきた美しいサンゴ礁と、そこに暮らす人々の文化や伝統を、これからの人たちにも残し伝えていくために、私達は何が出来るのか、どんな行動をすればよいか、を皆様方とともに考えてみたいと思っています。一般公開シンポジウム「サンゴと礁と人々の暮らし：サンゴ礁をめぐると自然、文化、経済」は、日本サンゴ礁学会の催しです。多くの方々の参加を希望します。

期 日：2000年9月23日

時 間：14:00 - 17:00

会 場：慶応義塾大学三田キャンパス 三田北新館ホール

（JR山手線田町駅下車 三田口から歩いて8分、大学正門入り右側）

基調講演

「サンゴ礁の人々と暮らし：地球温暖化と経済発展がもたらすもの」
“People's life on coral reefs --Threats of global warming and socio-economic impact”

・国際サンゴ礁学会会長：Dr. Terry Done（オーストラリア）

パネルディスカッション

「私達をめぐるとサンゴ礁 - 特に社会、経済、文化の見地から」

司 会：大森 信、討論者 近森 正、秋道智弥、

木村 匡、広瀬慎美子 ほか

日本サンゴ礁学会評議員会議事録

日 時：2000年4月8日 13:10 - 16:10

場 所：東京大学理学部5号館6F 604号室

出 席（16名）：山里・近森・大森（保）・大森（信）・茅根・菅・工藤・小西・土屋・中井・中野・西平・野崎・長谷川・日高・松田

委任状（10名）：秋道・河名・下池・立田・中森・林原・藤原・目崎・山野・横地

欠席（2名）：堀、松本、オブザーバー（1名）：堺（敬称略）

< 議事録 >

山里会長が議長に茅根を指名。堺を、オブザーバーとして参加を承認。

1. 各委員会報告

(1) 広報（野崎）

ニュースレター6号を発送した。ニュースレター7,8号の発送は、2000年大会の参加申し込み等のスケジュールと調整する。ホームページ（以下、HP）を立ち上げた。今後、学会の情報はHPに載せる。確認のためにニュースレターで情報を流す。

これに対して、HPを常時見ていないといけないうのか。会員としてのメリットがなくなるのではないのか。必要最小限の情報は、ニュースレターでという説明はよく分かった、等の意見があった。著作権のあるもの、会告などは、ニュースレターで流す。個人情報には載せないようにする、との回答があった。

(2) 学会誌（土屋）

1号は学会の宣伝のために配っている。当面は予算の関係もあり年1冊、締め切りがあった方がいいという意見があり、3月を締め切りとしている。

(3) 選挙（工藤）

今年は選挙はないが、名簿は作った方がよい。頭打ちの会員数に対して、拡大の方策について議論があった。

(4) 企画：報告なし

(5) 白化（土屋）

いくつかの白化プロジェクトがまともに入っている。石垣の国際サンゴ礁研究モニタリングセンター（環境庁）でシンポジウムが開催される。白化委員会を、サンゴ礁の保全に関する委員会に発展的に移行してはどうか。

(6) 事務局（茅根）

現在会員数は320である。受付番号との差し引きを考えると、設立後の退会者は30と算出される。

2. 2000年大会実行委員会（近森）

開催日 9月22日～24日 開催場所 慶応大学（三田）

* 評議員会での報告後、祝日等との関係を大会委員会で再度議論し、日程を下記のように変更した。スケジュール、役割分担の詳細については、大会委員会の報告を参照して下さい。

ポスター発表を促す、生物・地質などのセッション区分ではなく、地域やテーマなどで発表を集め、アクセントをつけたい。募集の際に考慮する。

3. 国際サンゴ礁シンポジウム誘致委員会（土屋）

招致準備委員会の議論に基づいて、2004年を日本に誘致、沖縄で開催することを提案。誘致の方針・シンポジウムの内容・会計の見積もり・巡検候補地などについて説明した。

2004年の誘致を目指すこと、誘致委員会を設置すること、これに伴って招致準備小委員会を解散することを評議員会で承認した。誘致委員会の代表：山里、委員長：土屋、他の担当は誘致委員会報告を参照のこと。

原案に基づき、4月中に日本語の、5月中に英文の誘致のための申請を作る科学プログラム係に西平孝と松田 伸也の両氏、巡検係に長谷川 均氏が加わるなど、本日出席していない評議員も含めて全員が誘致委員会に参加することで合意した。

収支の見積もりに寄れば、シンポジウムの準備、運営・プロシーディングスの印刷のために8千万円前後必要。これに対して、参加費は4千万円前後と見積もられる。さらに、基調講演、発展途上国からの研究者の支援のために1千万から2千万円必要。これに対して、参加費収入は4千万円前後。差額の4千万円以上を国、地方公共団体、法人、企業からの支援をえなければならない。誘致委員会の中の募金係を募金委員会として、あげられていた4名のほかに他のメンバーも加わり早急に立ち上げる、同委員会の責任者に工藤 君明氏が推薦され、ともに賛成承認された。誘致準備にも、パンフレット作成のために費用が必要。10月のバリのシンポジウムで誘致活動を行うためには、5,6月にそのための資金を作らなくてはならない。

宣伝担当が誘致に必要な経費を作成する。会員から募金を募る。支援企業を募る。環境庁、外務省、科学技術庁、文部省などに話を持っていく。Tシャツ、帽子、ピンバッジを作り販売するなどの意見が出た。支援企業については積極的に勧誘し、JCIRSで承認を得る。過去のシンポジウムの収支、バリの大会での説明に人を送る必要があるかについて、情報を収集する。

4. その他

(1) 学会誌の販売について（事務局）

2号以降は販売価格を6500円として学会事務センターに販売を委託することで承認を得た。1号は従来通り事務局が担当する。

(2) ML（田中）

現状のMLについて説明があった。現在、MLの登録は会員に限っているが、HP上にML入会手続きを公開するのであれば、事務局の承認手続きが膨大になるので、MLを公開してはどうか。これに対して広報委員長から、MLは悪用されるおそれや乱用されるおそれがあるため、原則として会員に限るべきである、登録方法をHPに公開しないとの意見があった。さらに、MLは会員のメリットである等の意見が出て、当面、現状通り会員に限定し、承認手続きを続けることで合意した。

編集後記

日本サンゴ礁学会ニュースレターNo.7をお送りします。

今回は日本サンゴ礁学会第3回大会（2000/2001年度大会）のご案内と4月8日開催の評議員会議事録を掲載しました。とくに、国際サンゴ礁シンポジウムの2004年に沖縄で開催するため誘致委員会を設置することが評議員会で決定されたことが注目されます。次号（No.8）は7月下旬に第3回大会プログラムを掲載して発行の予定です。



日本サンゴ礁学会ニュースレター

Newsletter of

Japanese Coral Reef Society Vol.7

2000年6月16日発行

編集・発行人 / 野崎 健

発行所 / 日本サンゴ礁学会

事務局 / 茅根 創 <kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp>

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院

理学系研究科 地球惑星科学専攻

Fax : 03-3814-6358

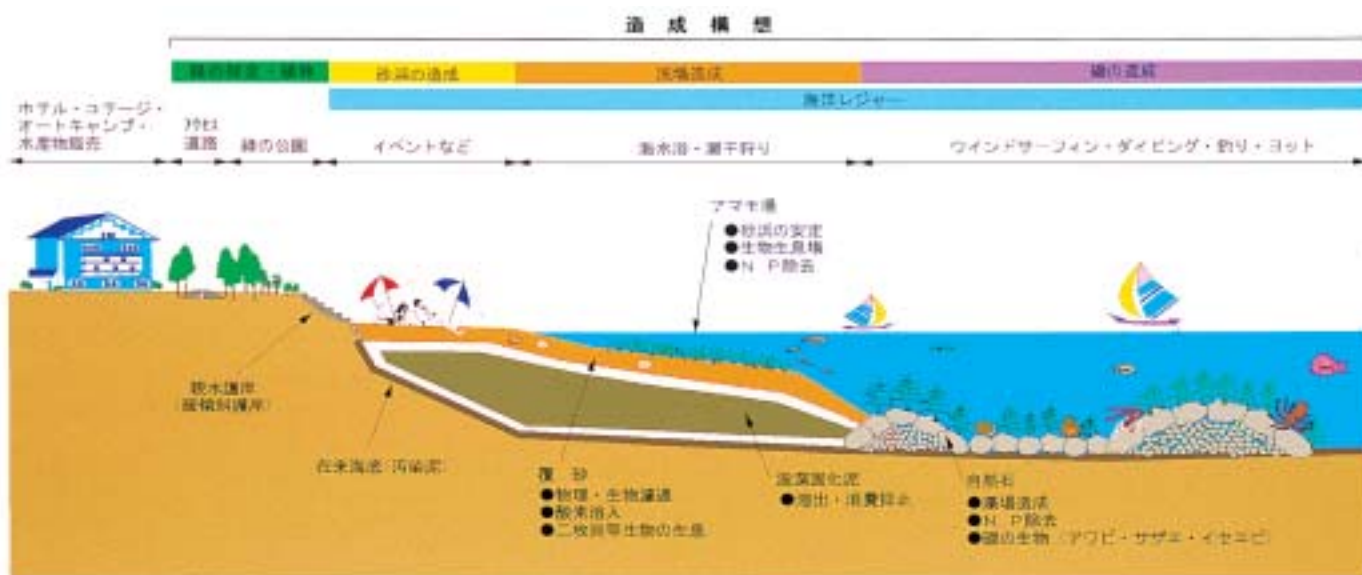
海と環境の総合コンサルタントとして

生物環境の創造

をお手伝いいたします



地球環境を大きく左右する海の環境保全に大きな関心が寄せられています。当社は、開発と保全、人と海の調和、ミチゲーションなど、今後の海洋環境保全を積極的に進めるため、生態系調査技術と構造物設計コンサル技術の集約化と研鑽に取り組んでいます。



芙蓉海洋開発株式会社

〒111-0051 東京都台東区蔵前 3丁目15番7号

TEL:03-5820-1181 FAX:03-5820-1226

中部・三重・大阪・新潟・北陸・東北・九州